

国

語

(60分)

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、
左記の注意事項をよく読むこと。

注意事項

- 1、問題冊子は、21ページまであります。
- 2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
- 3、始め、の合図でページ数を確認し、受験番号・名前を書きなさい。
- 4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
- 6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて監督の先生の指示に従って行動しなさい。
- 7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。

B日程

【国語】 P 1 5 問1 ア 1行目

誤 二人のおばあさんの前に坐ったまま

正 二人のおばあさんの前に座ったまま

P 1 6 問2 オ 1行目

誤 カズオはがもし席を立ちあがっても

正 カズオがもし席を立ちあがっても

問題は次のページから始まります

一 次の文章はさまざまな境目をこえて世界を一つに結びつけるグローバリズムについて説明した文章です。ここでは特にグローバリズムのすぐれた点と問題点のうち、問題点について書かれています。よく読んで、後の問いに答えなさい。
 (なお、字数制限のある問いは句読点や「」なども一字にふくみます。)

「カビの生えたような学問」という言葉があるが、私がやっているのは「カビが生える学問」である。私が主な研究材料にしている、いもち病というイネの病原菌は、子のう菌という真菌(カビ)に属している。カビの生えたような学問という、狭く薄暗い研究室で白衣を着た学者が顕微鏡をのぞいているというようなイメージがあるが、この時代においてカビに興味をもつ研究者というのは、どことなくそれに通じるものがある。アメリカのカリフォルニア州にあるアシロマ会議場で、2年に1度、世界中の「カビマニア」が一堂に会する学会が開かれるが、その比較的小さな国際会議の木造の薄暗い会場には、どことなく古き良き時代のサイエンスの*芳香が漂っている。

今さら言うまでもなく、現代では*自明の善としていろんなことが開かれていく方向に進んでいる。「開かれたこと」つまり情報の交換や物質の流通などが、物事の健全な発展のために必要なことは(A)をまたない。そういう意味では、この時代は過去と比べて本当に恵まれていると思う。大陸間の移動でさえ、豊かな国では普通の庶民が無理なく行えるようになり、欲しいと思う情報のほとんどはインターネットやテレビなどの通信手段によって手に入る。こういう「開かれたこと」が現代社会の基礎を作り、その発展に大いに*寄与していることは、もう圧倒的に明らかなことである。

けれど、一方で私が最近とみに思うのは、もっと「閉じられたこと」というものの大切さが意識されても良いということだ。昨今の風潮は、「閉じられたこと」の持つエネルギーや密度について、あまりに無頓着になっ**(b)**ているような気がする。開かれたということ、誰の目にも見て分かる「昼の力」とするなら、閉じられたことは、簡単には見えない「夜の力」みたいなものだ。基本的に純度のあるものは、閉じられているから存在できる。赤い絵の具を池の中に落とせば、そ

の色はなくなってしまふ。どんなものであつても、そのかたよりや純度を保つたためには閉じられた*時空間が*必須だ。そのことの意義は意外に大きいと思ふ。

その文脈で言えば、昔、日本は島国で鎖国さこくまでしていた。その閉じられた時空間の中で、日本の文化というのは育まれてきた。ちよんまげや*羽織袴はおりはかま、刀、お城おしろそして日本語、そういうものが、その文化の中である種の密度を持ち存在した。しかし、明治以後、多くのものを開き、西洋文化を取り入れてきたことで、たとえば着物文化というようなものは、

(3) その内在的な文化としての力を失ってしまったように見える。こんなことを言うのも*不謹慎ふきんしんかも知れないが、以前は、もし日本という国が圧倒的な軍事力を持ち、世界を*席卷せつげんしていたら、世界のみんなが着物を着るようなことになつて、そんな未来の世界の姿の一つとなる可能性を内包する密度と力を持つて存在してゐたと思ふ。しかし、残念ながら現在ではすでに着物に、そういった未来の世界の姿を担になうだけの密度はないような感じがする。垣根かきねを取り払い、開かれたことで、相対的に弱い文化が密度を失い力をなくしていく。この日本語という言葉も、日本人の英語下手という壁かべに守られ、現在はまだ生命力のある言葉として存在しているが、幼い頃からの英語教育が盛んになり、大学の授業は英語だ、社内社内の公用語は英語だ、といった状況じやうきやうが進んでいけば、かつての*ネイティブアメリカンやマヤの人たちの言葉が実質的に失われていったように、日本語という文化も一部の収集家によって保存されるだけのものになつていくのかも知れない。

英語を第二公用語にしようというような話が持ち上がる我が国であるから、それ(5)もまったくあり得ない話ではない。

もちろん着物も日本語もローカルな文化で、そんなものに*執着しゅうちやくする必要はないという人もいるだろう。私も特に着物を着たいとは思わない方だが、私がここで問題としてゐるのは、文化的*アイデンティティーとか愛国心とか、そういうこととは少し違ふ。たとえばガラパゴス諸島やオーストラリア大陸で、独自の進化が起こり、我々から見ると奇妙な生物たちが繁栄はんえいしたのは、これらの地域が地理的に隔離かくりされていたことが最も重要な要素だつたことは疑う余地がない。「閉じられたこと」が、その時主流となつてゐる事象と、その*亜種あしゆや改良版ではない、まったく違つた形の生き物や文化を

生む母体となっているのだ。「閉じられたこと」には、そういう力があるのではないかと思う。

閉じられたことは、育てること、に通じている。他と混じってしまえば、蹴散らされてしまうようなもの、色が消えてしまうようなものが、閉じられた空間だからこそ成長でき、成熟し、ある種の「世界」を作りあげることが可能となるのだ。

グローバルゼーションだ、グローバルスタンダードだと言うが、あらゆるものを混ぜて競わせれば、その結果、生き残るのは競争力や戦闘力せんとうりきという「かたよった特徴」が強いものばかりになる。競争で選抜せんぱつされるのは、実は限られた観点から見た優位性である。戦争に強い民族が、常に病気に強い訳でも、絵が上手い訳でも、足が速い訳でも、他人への思いやりに溢あふれている訳でもない。一つの観点で強い選択圧をかけてしまえば、その陰で多様で独自の特色を持った多くの*形質が失われてしまいかねない。

人類は、ある意味、世界の各地にある小さな閉じられた空間の中で、多くの独自の文化や社会の豊かさを育んできた。かつては世界のあちらこちらに、閉じられた袋ふくろがあり、それを開けるたびに独自の文化や物語が見つかり、そこに新鮮な驚きがあったのだ。それらは長い時間をかけて、その場所で、*醸成じょうせいされてきたからこそ独自のものだった。世界が開かれ、世界中の子どもがデイズニーしか見なくなったとして、そこに本当に新しい物語を作る力が、果たして残っているのだろうか？

そして今、大学もそういったグローバル化の中にある。⁶⁾今の大学は「閉じられた時空間」などというぜいたくなものと本当に無縁むえんの世界になっている。何かが育つのを待つようなゆっくりとした時間や空間はない。たくさん情報が流れ込み、それに対する多くの出力がすぐに要求される。目の前にあることをとりあえず「こなす」ことで、時間が過ぎてゆく。一つ一つの事項を取れば、文句を言う筋合いはない「必要で大切な」案件が並ぶ。しかし、これが全体として見れば、まったく*不毛で本末転倒なことに限りなく近づいているのは、一体どうしてなのだろうか？

昼と夜が交互こうごに来るように、洪水こうずいのように流れてくる情報を、もう一度静かな、小さな空間の中で動きを止め、*遅々ちぢとしていても密度のあるものに練ねり直す、そういう作業が可能だろうか？ そのために私たちは何をすべきなのだろうか？

カビの*孢子ほうしが発芽する。*菌糸きんしが伸びて、ピロードピロードの絨毯じゅうたんのように幾重いくえにも重なった、びっしりとした菌糸のマットが少しいびつな円形の*コロニーを作る。先端の白い菌糸から内側の灰色の菌糸へ*移相する*グラデーションとその僅わずかな菌糸の濃淡のうたんが規則的な*幾何学模様きかがくを作り、その上に白い*気中菌糸が立体的で規則性の捉とらえがたい複雑な形を描いている。シャーレのフタを開けた時、吹き出すような香りがする。「カビが生える学問(7)」の薫かおりだ。

(中屋敷均『科学と非科学』による)

(注)

- *芳香……よい香り
- *自明の善……はつきりと良いと思われていること
- *寄与……社会の役に立つこと
- *時空間……時間と空間を合わせて表現したもの
- *必須……これだけは落としてはいけないもの
- *羽織袴……日本の伝統的衣類である男性用の和服(着物)
- *不謹慎……ふまじめな様子
- *席卷……はげしい勢いで、自分の勢力範囲をひろげること
- *ネイティブアメリカン……アメリカ合衆国の先住民族

- * 執着……こだわること
- * アイデンティティー……自分が何者か認識すること
- * 亜種……生物を分類したときに、下の立場であると判断されるもの
- * 形質……生物のもつ各種の性質
- * 醸成……ある状態を少しずつつくり出すこと
- * 不毛……なんの進歩も成果も得られないこと
- * 遅々……とどこおること
- * 胞子……シダ植物・コケ植物・藻類・菌類などにつくられ、単独で個体となりうる細胞
- * 菌糸……菌類の体を構成する、糸状のもの
- * コロニー……同じ種類または数種類の生物の集まり
- * 移相……構造が変化すること
- * グラデーション……明るい部分から暗い部分まで、濃度が連続的に変化していくこと
- * 幾何学模様……三角形・方形・菱形・多角形・円形などを素材とする模様のこと
- * 気中菌糸……きのこの表面に菌糸が伸びている状態
- * シャーレ……科学実験で使用される道具の一つ

問1 傍線部(1)「カビの生えたような学問」とありますが、これはどのような学問のことをいうのですか、その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 科学技術によって創り出された様々な機器を使って行う、時代の先端を行く学問。
- イ 情報の交換などが全くなく、実験の結果や実績をほとんど公表しないような学問。
- ウ 古き良き時代の雰囲気を漂わせながら進行している、研究成果の出しにくい学問。
- エ 誰もが手をつけたがらず興味を持つ者もほとんどいない、研究者が育たない学問。
- オ 世間から注目されるようなものではない、古くさく時代遅れと思われる学問。

問2 本文中の空らん（A）に当てはまる言葉を漢字一字で答えなさい。

問3 波線部(a)「とみに」、(b)「無頓着に」の本文中の意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

(a) 「とみに」

- ア すぐに
- イ しきりに
- ウ じつくりと
- エ ゆつくりと
- オ わずかに

(b) 「無頓着に」

- ア 気が進まない
- イ 無意味だ
- ウ 気にかけない
- エ 無責任だ
- オ 気が気でない

問4 傍線部(2)「閉じられたことは、簡単には見えない『夜の力』みたいなもの」とありますが、その力によって存在しているものとして適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本文化のちよんまげや羽織袴、刀、お城そして第二公用語としての英語。
- イ 日本人の日本語や、かつてのネイティブアメリカンやマヤの人たちの言葉。
- ウ 日本の着物文化に代表されるような文化的なアイデンティティーや愛国心。
- エ 地理的に隔離された地域での他と異なるまったく違った形の生き物や文化。
- オ グローバルな世界で作り上げられた多くの人を感動させる力をもった芸術。

問5 傍線部(3)「その内在的な文化としての力」とありますが、これはどういうことを言おうとしているのですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 着物文化は、鎖国という不便な状況とはいえ商品流通を国内に封じ込められたことで、他国に見られない独自の優れた文化に進化する力を得た、ということ。
- イ 着物文化は、鎖国による閉じられた時空間の中で育まれたからこそ、内側に密度と純度が保たれ、日本独自の進化を遂げる力を秘めていた、ということ。
- ウ 着物文化は、日本国内の地理的に閉鎖された一部の地域で育まれたが、独特の優れたデザインは将来世界に認められる可能性をもっていた、ということ。
- エ 着物文化は、島国という閉ざされた不便な空間で生まれたので、開国後は洋服にとってかわられるほど相対的に文化的密度や純度が弱かった、ということ。
- オ 着物文化は、外界と遮断された島国という不便な状況でも生きのびた独自の文化なので、エネルギーや生命力は世界でも通用する力があつた、ということ。

問6 傍線部(4)「以前は」はどの言葉にかかってゆきますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 軍事力を持ち

イ 世界を席卷していたら

ウ 着物を着るようなことになっていた

エ 未来の世界の姿の一つとなる

オ 密度と力を持って存在していた

カ 思う

問7 傍線部(5)「それもまったくあり得ない話ではない」とありますが、「それ」とはどのようなことを指していますか。

次の文の空らん^{らん}に合うように三十字以内で答えなさい。

かつてのネイティブアメリカンやマヤの人たちと同様に()

() こと。

問8 傍線部(6)「今の大学」とありますが、「今の大学」に関して説明した次の文の空らん()①()②()には、本

文中の言葉が入ります。最も適当な言葉を、解答らん^{らん}に合うようにそれぞれ十二字で抜き出して答えなさい。

今の大学は目の前のことにおわれて、学生が成長する()①()がなく、その結果()②()を育むことに役立っていない。

問9 傍線部(7)「『カビが生える学問』の薫り」に込められている作者の気持ちを本文全体を踏まえて説明しているものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私のやっている学問はグローバル化されつつある現在の大学のありようになじまないが、閉ざされた世界は閉ざされることによって豊かで独自のものを生み出しているのであり、新しい物語をつくる力を秘めているのだという確信と自負の気持ちが込められている。

イ 私のやっている学問は閉ざされた世界の学問のように思われ、大学のグローバル化に背を向けているように見えるが、実は世界中の「カビマニア」とつながっており、正当に評価されていないという気持ちと新しい物語をつくる力を秘めているのだという自信の気持ちが込められている。

ウ 私のやっている学問は閉ざされることによって逆に豊かで独自のものを生み出していると思いたいが、地味な研究であり脚光を浴びる機会が少なく、世間にもっと認めてもらったうえで、グローバル化を進める大学にも本当は評価してほしいという気持ちが込められている。

エ 私のやっている学問は研究の手段の古くささとは対照的に、人間の独自性や創造性につながる新しい学問であるという自負の思いがあるのに、地味な研究であると思われることに反発し、もっと世間や大学に学問の中身を評価してほしいという気持ちが込められている。

オ 私のやっている学問はグローバル化に背を向けているように見えるが、実は世界中の「カビマニア」とつながっており、本質的な意味でグローバルな学問であり、閉ざすことによって独自の文化を守っているという自信とそれを誇りに思う気持ちが込められている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(なお、字数制限のある問いは句読点や「」なども一字にふくみます。)

カズオは電車の中にいる。ロングシートの席に座って、さつきから胸をドキドキさせて。目の前に、二人のおばあさんが立っている。

席をゆずらなくちゃ——。でも、カズオが立ち上がったって、シートには一人分のスペースしか空かない。おばあさん二人のうち、座れるのは一人だけだ。

歳をとっているほうのおばあさんに声をかけようか。だけど、若く見えるおばあさんは大きな荷物を持っている。遠くの駅まで乗るほうに座ってもらおうと思っても、行き先なんてわからない。二人で話し合っただけで決めればいい？ そんなの、どうやってお願いすればいいんだろう……。

おばあさんたちは、怒っているかもしれない。それとも悲しんでいるのだろうか。カズオは二人と目が合うのが怖くてうつむいてしまう。それだけでは足りずに、目もつぶった。座れるおばあさんと座れないおばあさんを分けてしまうのはよくないんだ、と自分に言い聞かせた。そんなの不公平なもの。座れないおばあさんがかわいそうなもの。だったら二人とも座れないほうがすっきりする……はずだ。

(1) 電車は走る。ガタゴトと揺れながら、走る。まわりのひとは、カズオのことを「やさしくない子ども」だと思っているかもしれない。ほんとうは違うのに。おばあさんが一人だけなら、すぐに席をゆずってあげたいのに。カズオは胸をドキさせたまま、ただじっと目をつぶって、眠ったふりをする。

タケシは電車の中にいる。ロングシートの席に座って、さつきからくちびるをキュッと噛みしめて。

どうしてオレの前に立つんだよ。目の前にいるおじいさんに文句を言ってやりたい。

おじいさんは、タケシが席をゆずってくれるのを待っているように見える。いつまでたってもタケシが立ち上がらない

からムツとしているようにも、見える。

そんなのヤだよ——。だって、オレもちゃんと切符きっぷを買って電車に乗ってるんだから。席きつに座る権利はある。絶対にある。おじいさんに「席をゆずってくれませんか」と頼たのまれたのならともかく、自分からその権利を捨てるなんて、おかしいじゃないか……。

吊革つりかわにつかまったおじいさんは、電車が揺れるたびに足をふらつかせて、倒れそうになる。席をゆずってあげたら、きっと喜ぶだろう。でも、電車の中には他にもたくさん座っているひとがいる。小学生のタケシより大きな子どもも、若者も、おとなも、席きつに座っている。タケシは、たまたま、おじいさんの前に座っているだけだ。なにも自分が席をゆずらなくても、誰かが立ち上がればいい。「目の前にいるひとが席をゆずること」という法律はないのだし、そもそも「お年寄りには必ず席をゆずること」と決められているわけでもないのだから、タケシが席を立つ必要なんて、どこにもない……はずだ。電車は走る。おじいさんは体を危あやなつかしく揺らしている。まわりのひとはタケシをちらちら見る。「おじいさんを座らせてあげなさい」と無言で伝えているのだろうか。だったら、そう思うひとが席をゆずればいいのに。⁽³⁾みんな身勝手だ。ひきょうだ。タケシはくちびるを噛みしめたまま、本を読みはじめた。でも、同じ行を何度も読んだり、ページをとばしてめくったことにしばらく気づかなかつたりして、本の内容はちつとも頭に入いってこなかった。

ヒナコは電車の中なかにいる。ロングシートの席きつに座って、さつきからため息を何度も飲み込こんで。

赤ちゃんを抱だっこして、小さなおにちゃんも連れたお母さんが、目の前に立たっている。片手で赤ちゃんのお尻しりを支え、片手をおにちゃんの手とつないで、吊革につかまることもできずに、両足をふんばって、なんとか体を支たえている。

席をゆずってあげたい——。いつもなら、ためらうことなく立ち上がって、「ここ、どうぞ」と声をかけているはずだ。でも、今日はダメ。悪いけど、今日はダメ。ごめんなさい。

頭あたまが痛い。ちよつと気分きぶんも悪い。乗り物酔よいをしてしまったようだし、背中がゾクゾクして寒ひやけもするから、もしかし

たら風邪をひきかけているのかもしれない。こんな体調で席をゆずったら、こっちが倒れてしまう。

お願い、許してください、と心の中で謝った。まわりのひとは頭痛も寒けもわからない。だから、わたしのことを「なんてひどい子どもなんだ」と思っているかもしれない、と想像するだけで、ヒナコは泣きそうになってしまう。

隣の席のおじさんが「どうぞ」とお母さんに席をゆずった。お母さんはホッとした様子で「ありがとうございます」とお礼を言つて座った。よかった。ヒナコまでホッとした。

でも、お母さんと入れ替わりにヒナコの目の前に立ったおじさんは、小さく舌打ちをした。⁽⁴⁾

怒ってる——？ わたしのことを——？

違うのに。わたしは席を「ゆずらなかつた」のではなく、「ゆずりたくてもゆずれなかつた」のに。お願い、わかつてください。ノートに『わたしは具合が悪いです』と書いて、看板みたいに持っていようか。そうすればみんなもわかってくれる。だけど、それも嘘だと思われたら……どうしよう……。

電車は走る。ヒナコの降りる駅はまだずつと先だったが、次の駅で降りよう、と決めた。ホームのベンチに座つて少し休もう。この電車には、もう乗つていたくない。ヒナコはうつむいた。まぶたが急に熱くなって、涙がぽとんと膝に落ちた。⁽⁵⁾

サユリは電車の中にいる。ロングシートの席に座つて、さつきからワクワクした胸の高鳴りをおさえて。⁽⁶⁾

目の前に、松葉杖をついたおねえさんが立っている。骨折したのだろう、左脚に真新しいギプスをつけて、松葉杖を何度も握り直して、揺れる電車の中で立っているのは大変そうだ。

席をゆずろう——。生まれて初めてのことだ。両親や学校の先生に教わった「助け合いの心」を発揮するチャンスを、ずつと待っていた。ついに、やっと、そのときが訪れたのだ。

「あの……ここ、どうぞ！」

立ち上がって、おねえさんに声をかけた。やった。うまく言えた。にっこり笑うこともできた。

おねえさんは小さく会釈えしやくをして、座った。

それだけ——？

会釈のときに低い声でぼそつと「あ、どーも」と言ったきり、お礼の言葉も感激の笑顔もない。せっかく勇気を出してゆずってあげたのに、まるでそんなの当然のことだとも言おうように……いや、べつにどっちでもいいんだけど、というほうが近いだろうか。とにかくおねえさんは面倒めんどうくさそうに座って、イヤホンで音楽を聴ききはじめてのだ。

がっかりした。感謝してくれないんだったら席をゆずらなきゃよかった、と思った。

あーあ、と吊革につかまっていたら、隣に立っていたおばさんが「えらいわねえ」と、にこにこ笑いながらほめてくれた。よかった。ちゃんとわかってくれるひとがいた。まわりのひともこっちを見ている。サユリは胸を張って言った。

「だって、困ってるひとやかわいそうなひとを助けてあげるのは当然のことです！」

おばさんは「そうね、そのとおりね」と——言ってくれなかった。にこにこ笑っていた顔が一瞬こわばったように見えた。まわりのひとたちが目をそらしていることにも気づいた。

どうしてほめてもらえなかったのか、サユリにはわからない。ただ、周囲の空気が急にどんよりと重くなって、なんともいえず居い心地こちが悪くなっていた。

もう、おばさんはサユリに声をかけてこない。おねえさんは音楽を聴きながら雑誌をめくっている。「この子にちゃんとお礼を言いなさいよ」とおばさんが言ってくればいいのに。まわりのひとも、恩知らずのおねえさんを冷たい目で見てくれればいいのに。でも、なんだか逆に、サユリのほうがみんなに叱しかられているような気がしてしかたない。

なんで？　ねえ、なんで——？

電車は走る。サユリは吊革を強く握にぎりしめる。なにがなんだかわからないまま、さっきの一言をおねえさんに聞かれな

くてよかったのかもしれないと、ふと思った。なぜそう思ったのかも、わからないまま、だっただけだ。

ほくたちは、みんな、電車の中にいる。「世の中」という名前の電車に乗り合わせた乗客だ、ほくたちは誰もが。

座っているひともある。立っているひともある。重い荷物を提さげたひともしあれば、身軽なひともある。「X」は、乗っているひとの数だけある。でも、それは必ずしも「Y」とは一致いっちしない。なんとなく決まっている「Z」（それを「常識」と呼ぶ）から、「それぞれの正しさ」がはみ出してしまうことだって、ある。

電車は走る。数え切れない「正しさ」は、すれ違ったりぶつかり合ったりしながら、電車に揺られている。床ゆかに転がって誰だれかに踏ふみつぶされてしまった「正しさ」も、きつとそこにはあるだろう。あなたの「正しさ」はどこにある？ そして、それは誰の「正しさ」と衝突しょうとつして、誰の「正しさ」と手を取り合っているのだろう。

(重松清『きみの町で』による)

問1 傍線部(1)「電車は走る。ガタゴトと揺れながら、走る。」は、カズオのどのような心情を表した表現だと考えられますか。これを説明としたものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二人のおばあさんの前に坐ったまま動こうとしないカズオを、「やさしくない子ども」だと言って非難する乗客に
対し、こみあげた怒りがおさまりきらない心情を表している。

イ おばあさんが二人で長い時間立っていても、眠ったふりを続けていれば、周囲の人に決して席をゆずらない人だと理解してもらえろという、カズオの強い信念を表している。

ウ カズオが二人のおばあさんを前にして、どちらのおばあさんに声を掛けたほうがいいのか決めかね、ずっと自問自答を繰り返して悩み続ける苦しい心情を表している。

エ 二人のおばあさんが目の前に立っていたとしても、座れるおばあさんと座れないおばあさんに分けてしまうのは不公平になるという、カズオの落ち着いた判断力を表している。

オ カズオが二人のおばあさんを前にして、どちらか一人のおばあさんに不公平になることを心の中で謝りつつも、席をゆずる思いが次第に固い決意に変わる心情を表している。

問2 傍線部②「ただじっと目をつぶって、眠ったふりをする」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア カズオはおばあさんに席をゆずろうと考えていたが、もし一人のおばあさんに席をゆずるともう一人のおばあさんは座れなくなってしまうどころか、自分も座ることができなくなってしまう不公平感を感じて、「やさしくない子ども」だと自分でも分かっていたけれどもその場をやり過ごそうと緊張きんちやうしていたから。

イ カズオが自分の席を一人のおばあさんにゆずってしまったと、もう一人のおばあさんに席をゆずれなくなり、二人のおばあさんを怒らせたり悲しませたりすることに不公平感を感じ、本当はすぐにでも席をゆずってあげようとしているが、その姿はまわりから「やさしくない子ども」とうつうつつてしまい嫌いやだったから。

ウ カズオがもし一人のおばあさんに席をゆずると、もう一人のおばあさんに席をゆずることができなくなってしまう不公平感に悩み、どちらか一方に席をゆずることをためらっていたが、その姿がまわりから「やさしくない子ども」だと思われているのではないかと考えると責められているようでつらかったから。

エ カズオがもし自分の席を一人のおばあさんにゆずらなければ、もう一人のおばあさんに席をゆずらなくてすみ、それははじめから感じていた不公平感の解消につながるだけではなく、まわりがカズオに対していた「やさしくない子ども」だという見方そのものまでもなくしていくことにつながると安心していったから。

オ カズオがもし席を立ち上がったとしても、シートには一人分のスペースしか空きがでないため、二人のおばあさんの間に不公平感がでてしまうくらいであれば、もう一人分のスペースが空くまで待つて席をゆずることを考え、「やさしくない子ども」というまわりの見方を必死になつてたえることになつていったから。

問3 傍線部(3)「みんな身勝手だ。ひきょうだ。」とありますが、タケシはなぜこのように考えるのですか。次の文の空らん に当てはまる言葉を ・ は六字、 は五字で本文中から抜き出しなさい。

切符を買って電車に乗っている以上みんな があり、 のは誰でもいいはずなのに、たまたまおじいさんの前に座っただけの自分をみんなが から。

問4 傍線部(4)「小さく舌打ちをした」とありますが、それをヒナコはどのように受けとめましたか。その説明としても適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 席をゆずってあげた自分へのごほうび

イ 席をゆずらなかつたヒナコへの非難

ウ 席をゆずろうとしない周囲への抗議こうぎ

エ 席をゆずらされたお母さんへの怒り

オ 席をゆずってしまった自分へのいらだち

問5 傍線部(5)「次の駅で降りよう、と決めた」とありますが、それはなぜですか。その理由を説明した次の文の空らんにあてはまるように三十字以内で答えなさい。

具合が悪くて席をゆずれなかったことに対して、おじさんをはじめ から。

問6 傍線部(6)「ワクワクした胸の高鳴り」とあるがなぜこのような気持ちになっているのか。その理由を説明した次の文の空らんにあてはまるように本文中から二十字以内で抜き出さない。

目の前にいる、松葉杖をついているお姉さんを前に、()がやってきたから。

問7 文中の空らん に当てはまる語句を次の中から選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度使うことはできません。

ア ほかのひとの正しさ イ わたしの正しさ ウ みんなの正しさ

問8 この話の読んだあとに、先生が『夕焼け』という詩について次のように説明しました。その後の生徒A・B・C・D・E・Fさんの会話を読んで、本文の内容と合致するものには○を、合致しないものには×をそれぞれ書きなさい。
 (なお、すべてを○もしくは×にしたものは採点の対象外とする。)

夕焼け

吉野弘

いつものことだが

しかし
 また又立って

からだ
 身体をこわばらせて。
 僕は電車を降りた。

電車は満員だった。

席を

固くなってうつむいて
 娘はどこまで行つたらう。

そして

そのとしよりにゆずった。

やさしい心の持主は

いつものことだが

としよりは次の駅で礼を言つて降りた。

いつでもどこでも

若者と娘が腰をおろし

娘は坐った。

われにもあらず受難者となる。

としよりが立っていた。

二度あることは と言う通り

なぜ
 何故つて

うつむいていた娘が立って

別のとしよりが娘の前に

やさしい心の持主は

としよりに席をゆずった。

押し出された。

他人のつらさを自分のつらさのように

そそくさととしよりが坐すわった。

可かわい哀い想そうに。

感じるから。

礼も言わずにとしよりは次の駅で降りた。

娘はうつむいて

やさしい心に責められながら

娘は坐った。

そして今度は席を立たなかった。

娘はどこまでゆけるだろう。

別のとしよりが娘の前に

次の駅も

下唇を噛んで

横あいから押されてきた。

次の駅も

つらい気持ちで

娘はうつむいた。

下唇したくちびるをギョツと噛んで

美しい夕焼けも見ないで。

先生 この話は二〇一三年の重松清さんの作品です。重松さんはこの作品についてこういつています。

「小さなお話でも、深い問いかけを込めたつもりです。きみの町と、きみに思いを寄せてほしい遠くの町のお話とを組み合わせました。ゆっくり読んでいただければ、と願っています。」また詩のほうは吉野弘さんが一九五八年に発表したものです。この二つの作品を比べるとどう感じるでしょうか、話し合ってください。

Aさん 詩の主人公と小説の主人公とが置かれている立場はよく似ているね。

Bさん そうだね。特にヒナコはよく似ているね。小説の作者は彼女たちにサユリのような強さを持つべきだといいたいんだね。

Cさん そうかな。サユリに対しては冷たい感じがするけど。カズオとタケシには同情的だと思うよ。

Dさん 詩のほうは主人公の娘に同情し「やさしい」と言っているのに対して小説のほうは四人の行動や思いを通して「正しさ」とは何かを考えてほしいんじゃないかな。

Eさん 私もそう思うよ。詩も小説も人としてどう行動すべきなのかを日常のありふれた状況を描く^{えが}ことで考えさせようとしているんだと思うよ。

Fさん そうかな。私は子供がづらい状況に陥^{おちい}っても、手を差し伸べようとしない大人に対して批判しているような気がするよ。

三 傍線部のカタカナを漢字に直して、ていねいに書きなさい。

- ① こわれた橋をホシユウする。
- ② 油絵のコテンを開く。
- ③ 今回の作品はカイシンの出来だ。
- ④ 成功するホシヨウはない。
- ⑤ ノウゼイは国民の義務である。
- ⑥ 子どもにエイサイ教育を受けさせる。
- ⑦ 自伝をシュツパンする。
- ⑧ 明日は制服のサイスン日だ。
- ⑨ 商店街はカツキにあふれている。
- ⑩ お盆ぼんにセンゾくようの供養をする。

B日程・国語

一

問1 オ 問2 論

問3 (a)イ (b)ウ 問4 イ エ

問5 イ 問6 オ

問7 (かつてのネイティブアメリカンやマヤの人たちと同様に)

日本語という言葉も実質的に失われてしまうかもしれないという (こと。)

問8 (今の大学は目の前のことにおわれて、学生が成長する)

① ゆっくりとした時間や空間 (がなく、その結果)

② 独自の文化や社会の豊かさ (を育むことに役立っていない。)

問9 ア

二

問1 ウ 問2 ウ

問3 [A] 席に座る権利

[B] 席をゆずる

[C] ちらちら見る

問4 イ

問5 (具合が悪くて席をゆずれなかったことに対して、おじさんをはじめ)

周りが責めているように感じて、気まずい気持ちになった (から。)

問6 (目の前にいる、松葉杖をついているお姉さんを前に、)

「助け合いの心」を発揮するチャンス

(がやってきたから。)

問7 [X] イ [Y] ア [Z] ウ

問8 [Aさん] ○ [Bさん] × [Cさん] ×

[Dさん] ○ [Eさん] × [Fさん] ×

三 ① 補修 ② 個展 ③ 会心 ④ 保証 ⑤ 納税

⑥ 英才 ⑦ 出版 ⑧ 採寸 ⑨ 活気 ⑩ 先祖

※解答例以外にも正解としたり、得点を与えることがある。